

「伝統と改革」

日本テンプルヴァン(株)井上拓郎

「伝統」

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年は皆さまの生活においても、コロナ禍により様々な影響のあった年だったのではないでしょうか。日本漢字能力検定協会が発表する、その年の世相を表す「今年の漢字」の一位は「密」でした。三密を避け、人と直接対面する機会も減り、人と接する事の大切さに気付かされた年でもありました。そして「今年の漢字」の四位に「新」と五位には「変」が選ばれており、新型コロナウイルスによって、新しい生活様式へ変化を求められた年でもあったと思います。当たり前の事が当たり前でなくなり、苦難、困難を経験して、日常の有難さや人に対する感謝を感じる機会も多く、「無難」や「有難い」の言葉の大切さを感じた年でもありました。

コロナ禍によって、航空、鉄道、宿泊、飲食、レジャーなどの業界で大幅な売上減少に陥っておりますが、これは移動の制限や、営業自粛、時短営業の要請を受けて、直接的なサービスを提供出来なかった業界

が殆どです。また在宅勤務や外出自粛により、インターネット通販やそれらで注文した物品を運ぶ運送業や宅配業、テレワークや自宅での作業が増えた事により、パソコンや家具を取り扱う販売店などの売上は好調だったようです。これらの状況を表す言葉に「巣ごもり需要」という言葉がありますが、これらの事象は一時的なものですが、私たちがの生活もいずれは元に戻るであろうと思います。しかし一度変わってしまった生活様式は、全て完全に戻るとは限りません。皆様のお寺で伝統的(慣習的)に行っていた事でも、コロナ禍において変更や中止になった活動があったと思います。お盆やお施餓鬼の法要、彼岸法要、お葬儀やお通夜、法事、除夜の鐘など、それぞれの伝統(慣習)があり、変えられない事もある中、創意工夫をして日々宗教活動をされていると思います。守っていききたい伝統や慣習がある中で、変化を求められた昨年だったのではないのでしょうか。ちなみに「今年の漢字」の六位は「家」で、選ばれた理由には「家にいる時間が多かったから」や「家族という時間が長くあり家族の絆が深まったから」といったものでした。本年はお寺の行事に家族で参加される方が増える事を願っております。

「改革」

今年も東京オリンピックが開催される予定となっており、過去には一九四〇年にも開催する予定でしたが、日中戦争により開催権を返上し中止となりました。過去にオリンピックの開催が中止となった事は五回(夏季冬季合わせて)あり、今回が初めての開催延期だったようです。今年のオリンピックもコロナウイルスがある程度収束していないと開催できない恐れもあります。海外ではコロナウイルスに対するワクチン接種も始まっており、予定通りであれば日本でもワクチン接種が始まっていると思われ、ワクチン接種によってコロナウイルスが過去の感染症となるのか、それとも新しい生活様式が日常となるのかは未知数ですが、昨年発足した菅内閣がデジタル庁の新設や脱ハンコ、携帯料金の値下げを政策として掲げており、より一層デジタル化が加速することは容易に想像出来ます。宗教界でも東本願寺(真宗大谷派)では、QRコードによるお賽銭の受付と読経志や納骨志、出版物の冥加金においてはクレジットカードによる決済方式が導入されました。新たな生活様式に対応する為の大きな改革ではありますが、変えられない事と変えていかなくてはならない事を熟慮した上での改革なのだと思います。